

学校造りが地域の歴史だった

10月21日、学習発表会「とどろき祭り」当日。会場には保護者や教育関係者、地域の皆さん150人が来場しました。最初に全校発表の部として、鶏舞や合唱などが披露。続いて学年発表の部では各学年による劇が行われ、「とどろきの99年史」は4

物語は学校建設のため、力を尽くした轟木地区の人たちの苦勞を綴つたもの。5年生・6年生18人と白石老人クラブ10人が出演し、明治、昭和、平成の各年代における学校の様子を表現しました。

「学びの場」の提供が
みんなの願いだった

「思いやりの丘」と呼ばれる学校の前庭にある平らな石。ある子供がこの石に疑問を持つ場面から、物語は始まりました。

そこから時代はさかのぼること99年前の明治41年。小学校の義務教育が6年制になり、この地区に初めてできた小学校。名前は織笠尋常高等小学校白石分校場といました。当時は1年

生から4年生までが同じ教室で勉強する複式学級で、先生はたった1人。満足な授業もできず、学びの場には程遠い環境でした。しかも、学校ができてわずか3年後、白石分校場は火災で焼失。以後は民家を借りて、授業を続けていました。

それから時代は変わり昭和28年、依然として行われていた複式学級での授業は、すでに限界を迎えていました。そんな中、地域では子供たちに十分な教育を受けさせたいと、独立校建設の機運が高まりを見せていました。用地を寄付する方も現れ、順調に進むかと思われましたが、その土地はあちこちに深い穴があり、建物を建てるためには莫大な費用が必要だったのです。

「地域の学校」のため
一丸となった地区民

暗礁に乗り上げかけた学校建設に立ち上がったのは、田子の木、馬指野、礼堂の青年団。すべては地区民の願い「地域の学校」を造るためでした。地域住民も青年団に協力してみんなで

整地を行い、そこに織笠小学校
轟木分校が建設されました。地
域が丸となって取り組んだ学
校建設事業は実を結び、地区民
の悲願は達成されました。

「思いやりの丘」に
込められた優しさ

その後昭和58年に轟木小学校として独立、創立10周年を迎えた平成4年に記念事業として地域の方々が校庭を整備しました。校庭に子供たちに憩いの場所を造ってあげよう――。そんな思いから「思いやりの丘」が造られることになりました。作業はすべてボランティアで行われ

トトラック180台分もの土、そして山から大きな石15個が運び込まれました。平らな石の上でお弁当を広げたり、本を読んだりしてほしいという、地域の人たちの「思いやり」が詰まった丘がこうしてできたのです。

地域住民の力を結集して造られた轟木小学校。その歴史から同校は「地域コミュニティ」の拠点として、地域住民から深い愛着を持たれています。

「地域の学校」を造るため力を
尽くした先人たちの思い。今も
色あせることなく、しっかりと
現代に受け継がれていました。

劇と一緒にやっていたいろいろ学んだ



松原^{ゆう}佑^き樹君
(轟木小6年)

緊張せずにセリフを言えて良かったです。劇で難しかったのは、セリフがないところでの演技です。老人クラブの皆さんと一緒に劇をやって、いろんなことを教わりました。

昔の人たちの頑張りに驚きました



糠森 ^{のどか} 和さん
(轟木小6年)

楽しみながら劇が
できました。老人ク
ラブの方に、セリフ
を忘れたとき教えて
あげました。昔の人
たちは、学校を作る
ために自分たちで頑
張ったのがすごいな
と思いました。

子供たちとの交流で若返った気分



中村 眞一さん
(織笠・75歳)

わたしは、5年生の孫と一緒に劇に出演しました。なかなかセリフが覚えられなくて苦労しましたが、子供たちと交流することで、気持ちの若返りにもなっているですね。

これからも続けてほしいですね



佐々木フサコさん
(織笠・70歳)

素晴らしい劇に感動しました。こうして子供たちと老人クラブの皆さんが交流を持っていくのはとても良いことだと思います。これからもぜひ続けていってほしいですね。



①地区民が力を合わせ、学校用地の整地に取り組んだ様子／②轟木小創立10周年の事業として地区民の協力の下「思いやりの丘」に石が運び込まれました／③明治41年の白石分教場の様子を再現。兄弟の子守りをしながら授業を受ける子供もいました／④老人クラブや児童らの熱演振りに、観客の皆さんには笑みがこぼれていました／⑤劇終了後のカーテンコールでは、会場から惜しみない拍手が送られていました

